

## 731部隊医師・二木秀雄の創刊した占領期時局雑誌 加藤哲郎

### 旬刊『輿論』、月刊『日本輿論』総目次（金沢、1945.11-46.5?）

金沢市石浦町[現香林坊]28番地・輿論社（創刊号のみ大山公平名、2号から二木秀雄発行、旬刊（45/8-9 731部隊金沢集結、15人野間神社に731部隊仮本部、資材標本は金沢医大教授石川太刀雄・病院倉庫に）。西田罔夫『創刊のころ——金沢の戦後雑誌から』1973,p.43によれば、『輿論』は二木秀雄・元金沢医大細菌学教官と柏原勉・元主計大尉が11月10日創刊。国会図書館にもプランゲ文庫にも『輿論』はなし（後継『日本輿論』のみプランゲ文庫に検閲有）。

1945・11・10旬刊『輿論』創刊号（編集兼発行人 大山公平、かつて「日本の古本屋」で売買）室伏哲郎（1930年生、当時15歳！）他「進駐軍と語る」「進駐軍とわれら」、「既成人と新人の一問一答、自由党総裁鳩山一郎氏と輿論社社長二木秀雄博士」、「救済に全国方面委員は立つ」「再建政治のあり方」、「原子爆弾を繞る世界最近の動向——平和維持のために」、連載「敗戦哲学」「国際短波」（この日、千葉県で石井四郎偽装葬儀）

1945・11・20 2号（編集兼発行人731二木秀雄、15頁）社論「天皇制を国民直接投票に決せよ」、無署名（二木?）「原子力と将来の産業——石炭に代るウラニウムの威力」、「終戦前夜御前会議の真相」、主食三合配給の断行、米スポーツマンM中尉は語る、復員兵士のこと、連載：中村静治「新生婦人の常識」

1945・12・10 3号（15頁検閲無）社論「新世界観による日本憲法の創造」、「輿論調査 貴下は天皇制を存続せしむべしと考えられるか否か」、敗戦哲学、中共軍全滿の要衝席卷、悲惨北鮮の同胞、平松博（金沢医大）「新しき教育：教育を能率化せよ」、農地制度の根本的改革、政治家・政党・国民、中村静治「新生婦人の常識」、S中尉アメリカの家庭生活を訊く、生活医学、コント、国際短波

1945・12・21 4号 石川太刀雄（金沢医大、731部隊病理班長）「20世紀の神話 原子爆弾」（「原子爆弾に関する日本否世界最初の学術的、啓蒙的原稿」、広島は人体実験、放射能影響長期）、ドイツの陰謀録の計画、谷川勉「東京は狂ってる」、中村静治「日本経済再建の道」、バーナム「管理社会革命」、ナイト（米軍人）「日本の風物に接して」、1946・1・1? 2巻1号（一時古本屋「金沢文圃閣」で出る）

1946・1・11 2巻2号 金沢市武蔵ヶ辻 田守ビル 輿論社、「輿論調査（227サンプル）発表 天皇制の絶対護持91%、天皇制廃止説9%」 [南日本新聞 45.10,共同通信・読売報知 45.12の結果散逸のため 45.12の日本輿論調査所 94.8/4.9%日本輿論調査研究所 91.3/8.7%と共に現存戦後日本最古の天皇制輿論調査記録、731二木秀雄「新生日本の理想（天皇制・軍閥・財閥・封建的土地制度の侵略戦争、人口問題再燃、農業科学高度化増産、ウェルズの原子エネルギーによる世界的ユートピアへの進化）」、中村大郎「これからの絵画」、谷川勉「アメリカの対日輿論」、室伏哲郎「一箱の煙草の話（原子爆弾と竹槍、アメリカ文化へ）」、広告（三和銀行、月桂冠）

改題月刊『日本輿論』（プランゲ索引では「日本与論」） 金沢市武蔵ヶ辻 田守ビル・輿論社・発行人二木秀雄

1946・3（2巻3号 48頁 プランゲ検閲あり 7deletions）表紙（検閲）、731二木秀雄「旬刊輿論改題、輿論調査網の確立」、室伏高信「輿論と方向」、京大教授・大西芳夫「天皇制に就いて」（検閲大幅delete, nationalistic）、「天皇制の輿論調査発表：調査数 5000 回答 2131 天皇制支持 1963/92.1%（現状のまま 927/47.2%、大権を縮小 431/21.4%、政治の圏外に立ち道徳的中心として 615/31.4%）天皇制否定 120/5.6%（絶対不可 87/72.5%、現在必要なるも将来不必要 33/27.5%）国民投票の後決定 21/1%不明 27/1.2%（参考：輿論調査研究所回答数 2389/天皇制支持 91.4%/反対 8.6%）」、住谷悦治「明治維新の性質について」、伊東春男「日本債券の目標」、谷友次「戦後の癌 性病を語る」、北山良平「婦人の地位」、座談会（伊藤大輔・稲垣浩・マキノ正博ほか）「日本映画界の昨日・今日・明日」（検閲、一部delete）、中村静治「民主講座」、春木猛「米人学者の日本観」、郭沫若小説、村瀬幸子、棟方志功

1946・4（2巻4号 プランゲ検閲あり）安田徳太郎「働く婦人に生理休暇を与えよ」、座談会：神戸正雄・蜷川虎三・田岡良一・田畑盤門「永久平和への道」、二木秀雄「日本の方向」、室伏高信「新たなる構想」、倉田一郎「女権の歴史—婦人参政権をめぐる」、入山雄一「老闘士河上肇博士逝く」、渡辺政之助「ああ河上肇博士」、越村信三郎「自由と平等」、河上肇「亡友山本宣治君の墓前に語る」、加賀耽二（谷口善太郎）「蕾の梅 山宣追悼会参列記」、深水清吉郎「紙幣は腐らず」、新洞壽郎「日本映画再建のために」（検閲一部delete, criticism of SCAP）、大庭さち子「小説 返り咲き」、世相評論「物物交換」（二木執筆、一部delete, black marketing）、詩「国立自殺庁」（検閲disturbs public tranquility）

1946・5?（プランゲ文庫で4月号に予告、実際発行は不明）「時代の触覚——帝都一流新聞記者の打ち明け話座談会：毎日・朝日・読売各社記者」、「財閥の法的機構とその解体」、「知事公選論」、「家族制度論」、原「歴史は如何に書き換えるべきか」、越村信三郎「資本論人民講座」、高谷「歌舞伎の新生命」など